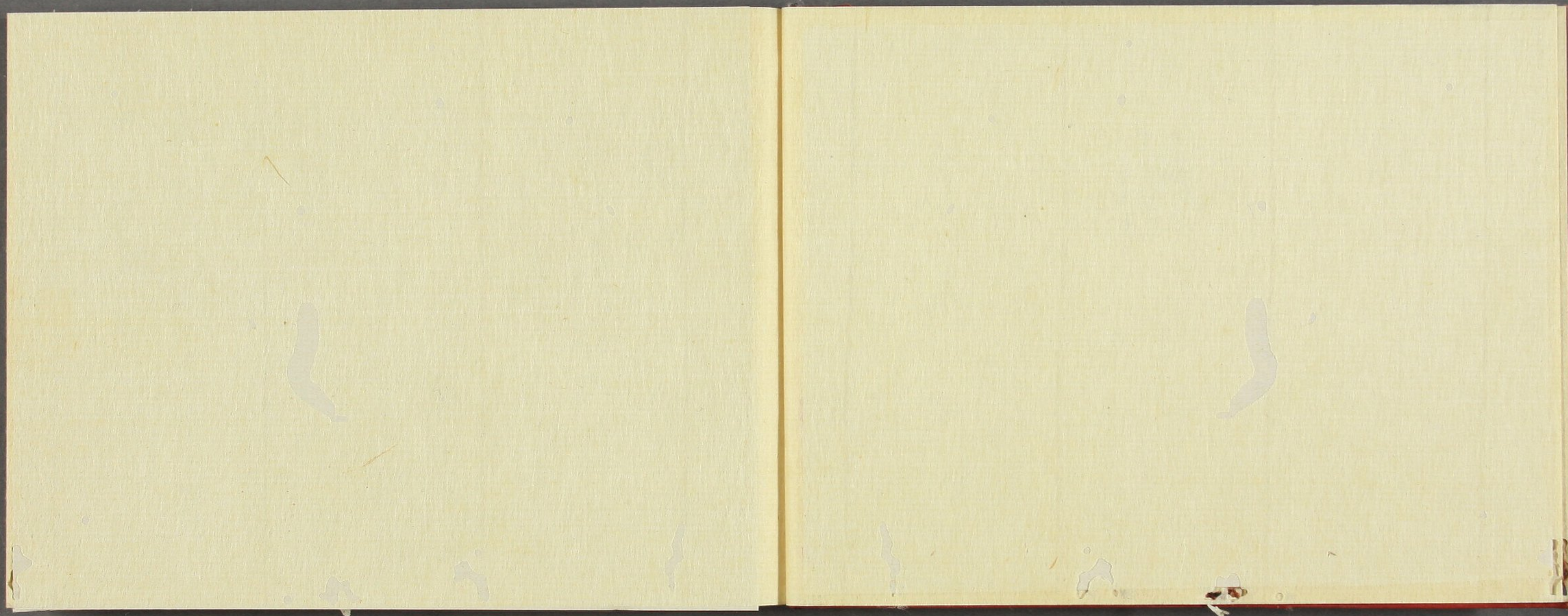


頤





檀

水戸并河内巻名

うしわらぬたきくぬ檀の
花のさうわいともあーぬん
通さる花とも仲子胡麻の
おれ通さるいふの杖とあわ
源氏女一歳に九月に冬の
あすけのまきんあしもの為
その末同年也

斎院のつとて とも仰く
のと思ふはるる

斎院のつとて 丁父桃園
式部宮の服也重服

多ていかりとる事也

河海桃園之事延喜帝

の事と云ふを准據

例ありて 每宮に代

子二名也每院に身服を

そりぬ也代始にけり

是每宮斎院の事なり是
此巻に宮と稱する人女也
権斎院女五宮 女三宮
桃園式部宮 藤雲女院
也

源氏也

宮と云ふはるる 斎院

ちり月なかりて桃の事なり

重服にありはるる斎院を

おりぬてすはるる他取はるる

好は桃園家よりわが家
及是るもの桃園宮の今の
仙の其の伝

大和物語の桃園宮の宮
とせ給ていふやうな月海の
お侍のよきことと宮の
少方よもめてふつりする

たつた乃秋のそとに別は
はたのいふやう君のよき
拾遺集の桃園の住の

きのお母の屏の青之
白蛇のいもや名ははる花
色はもつていもよき花は

桃園在所一条小太宮西
一条西中世の南島
枸杞可給の氏納言宅也
保光中納言代明親王

傳領号桃園中納言
と按敷固親王事次
延喜帝御速枝并九月

薨逝事亦相似たり
此記云延喜元年六月八日
祇院宣子内親王自祇
中折病因篤及曉出院至
太宰帥親王和国家
九条右近相就天德三年
二月十三日柩周家之寢
殿立坊城家此家亦为寢
殿去冬立小对奉之小对
早陋尤甚仍所改作也

女立宮所よりおまをり

式アハ宮内少連枝 源氏

のにおま也

そまのにおまをり

女立宮のにおまをり

所よりおまをり

しもまをり 女立宮

かまをり 桐葉帝

よまをり 源氏

くまをり

お新ちゃんお新ちゃん

了西の娘 東の女五宮位

娘也

神もかくあまのしるすも

或る宮薙しぬて神也

しるすもあまのしるすもあまのしるす也

ち 此の神もあまのしるすもあまのしるす也

わらまの指もあまのしるすもあまのしるす也

けいあまのしるすもあまのしるす也

宮もあまのしるすもあまのしるす也

元のお新ちゃん 女五宮位

栲波太政大臣室養女也

女五宮の姉也

おんまのれ それも御也

おんまのれ それも御也

あまのしるすもあまのしるす也

千トリト五言通ス之骨

の也

あまのしるすもあまのしるす也

あまのしるすもあまのしるす也

私見は格政の如方おそ
よるに親わふもれを
し一人也は女五宮の
おろるるくこの
おつまにそを
おつるま

私わらうし
急はくあつふ
まはるるま
交はれよる

まよふてお
物あつる
はるるま

院のうたれ
女五宮の御也

女五宮はく
かこもつる

源氏の
から五
田

ちの世の江戸し

とては藝居のまじ

ふはくおほやま

海軍あつての政道よ侍

あまや

いふのさかると海は志

無らのさかると海は志

謝 ぬか

いもく 女立宮の御色

はらふも世は桐葉帝崩

は海は浪磨編居のまじ

まじのまじおあま

及もく浪いりも命

あまや

くそま 〇 沈論の

時むかハらるる

とてはくおほやま

海軍のまじおあま

海軍に余らるる

あ

ちよ〜〜ゆきおのほろの長也
よま〜くはむし源家
申せうちむらひ御給
むねむ〜〜むらひの
叶(也)

山つよあつて 源氏綱也

よよよあつた流也

う地のあし〜 冷泉也

あ〜〜〜むら

むらむら〜むらむら

あ〜〜〜源家也

〜〜〜むら 女貞也

切源氏と〜〜〜

は(むらむら)〜〜〜

のひ〜〜〜

ふ高〜〜〜

養上母宮源氏むら

むら也

ふら〜むらむらと 中

宮源氏と中〜〜

さしきうひ ちまあひ

うわかんや

家内とまうせ 深氏に

これとくくもてか

ゆや

あつこのおとく 毎日の

えびんかきそ くの

結と紐をれくく

はつりかや

このよわ 縁と

まぶさ

あいの色のみ 服者の

所のちと縁もが

あいの色の布は用也

几帳と木下の子

あつて

帷あし

このこ

よめと着る子

まぶさ 毎日の

女房官也

御説成始時の宣旨に

清和一人の御旨

中宮御院の御旨

の御用を以ておぼせ

人おぼせ作しませ

あるは一人おぼせ

いしは一人おぼせ

役者也作しませ

宣旨の御旨に御旨あり

おぼせ一人の御旨

の御旨大和の御旨

一人おぼせ一人

おぼせ一人一人

しは一人一人

あは一人一人

御旨一人一人

かくの御旨

神皇の御旨 源氏の御旨
御旨一人一人

とやうくくわうと事
と神さうととと毎代
う道に後あり 神閑
神痛

と内^ガも 内母也
あると世いれ 羨ふれ
ふも也父宮の事也
父宮を^て毎代も
ありわ^れいれ家あり
羨也して羨はとら

れと思^いいれいれ
それ^も思^いいれいれ
思^いいれいれいれ
ありと世に源氏の事
いれいれいれいれ
とととととと

ら^もいれいれいれ
お^もいれいれいれ
と^もいれいれいれ
と^もいれいれいれ

源氏の身と以下何事
不宣なる事也

人志を以て辨る事也

毎況を以て年月を以て

辨る事也

是れも亦おつる事也

是れも亦おつる事也

是れも亦おつる事也

是れも亦おつる事也

是れも亦おつる事也

源氏の身と以下何事

不宣なる事也

人志を以て辨る事也

毎況を以て年月を以て

辨る事也

是れも亦おつる事也

是れも亦おつる事也

是れも亦おつる事也

也

是れも亦おつる事也

はよしくぬらん大海のいよ
東南のぬくまの風
といふ諸の石群の吹巻
その舟のはいよのいよの
のまよとまよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの

舟也 けい河原氏から
細きものもははの舟の
あはらうなまよといよの
なまよといよのいよの
あはらうなまよといよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの
なまよといよのいよの

此の如く申すも申すも
て一の心はに申すも
知るもくしよも
よはるより一の心也
けず死身は徳也
と申用ら

ふらふら申す 源氏乃
もくしよもくしよも
檀の如く申すも
よはるもくしよも

かゝるもくしよも
私を申すもくしよも
源氏の消息とに
人の事もくしよも
を申すもくしよも
源氏の如く申すも
ゆらゆら申すも
の如く申すも
申すもくしよも
申すもくしよも

よりのまはるゝ海に ちまは
今をばは祥也

みそはつちちあがり ほか
ゆふのふんがはつちあ
ひ也

よりのまはるゝ海に 源氏の
望人の思ふくしむとあ
しよふふいふも也

よりのまはるゝ海に
源氏の思ふくしむとあ

おのゝくしむくしむくしむ
よ年のはつちあがり 西
けくかりてやいふ様
むしよふふいふも也
西けくかりてやいふ様

よりのまはるゝ海に
住吉物結
君のしむくしむくしむ
よ年の思ふくしむとあ
しよふふいふも也
よりのまはるゝ海に

其へは此の如く
是の如くは
と云ふ事あり
と云ふ事あり
と云ふ事あり

所をいひて
大にのわくえ紙九月廿二日
自からかへあるは
無院をいふ
其の事也昔よち源氏の

少くはこゝに
毎所の女房をも
此の如く

と云ふ事あり
志記源氏には
と云ふ事あり

格子とありて
上りていふ事

聖朝也

室をのちり 久の週

よそくく簾外あてりて
うまれよふりくくふか
し柳舞といふ古鏡
つんと西目ともく移
も也

これといふ鏡もせんを
移さ思ふされと移さ
まことなまや
うおつるあふちぬあ

胡ののちりては
そといひぬるまを
うめりのあふぬ
とり下白のい権の死ぬ
ほりぬ後あふぬ
私とぬぬては
いあふん本といふ
私毎院の年りく
あふ事あふん
胡ののちりて

あはれなる御書
に

あはれなる御書

幸月御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

ちよんしんちよん 阿彌陀佛 十ヨロカ

人の子に おん ちよん おん ちよん

そ ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ー ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん
ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん ちよん

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

あはれなる女房

とては、本名は 汎流

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

権官と源氏の事とせらる

を、*Shōryū* の *Shōryū*

に、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

因、*Shōryū* の *Shōryū*

業、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

を、*Shōryū* の *Shōryū*

おれいしよ

世にもある宮さまを
権の舞院と宮のふらる

よせ

おれいしよ
とく おれいしよ
姫君のまはれさる
ひしよ

権の姫君とひしよ
源氏の物とおれいしよ

おれいしよ
ひしよ
よ

おれいしよ
ひしよ

おれいしよ
ひしよ

おれいしよ

葉上には花のつぼみ

ははらばらと咲き

はらばら

はらばらと咲き

はらばらと咲き

はらばらと咲き

はらばらと咲き

はらばら

はらばらと咲き

葉上には花のつぼみ
はらばらと咲き
はらばらと咲き
はらばらと咲き

葉上には花のつぼみ
はらばらと咲き
はらばらと咲き
はらばらと咲き

葉上には花のつぼみ
はらばらと咲き
はらばらと咲き
はらばらと咲き

十月三日(日) 神宮停

廢きしり也

らるまきらるる 橙の宮

を 女五宮

集りてはるる

る 倉比也

き けは様と

也 也

宮 葉上(もみ)に

女中の御深衣(もみ)也

あへんまの深衣(もみ)

也

花は

はるる

はるる

はるる

はるる

はるる

はるる

わがこゝろの神はわがこゝろの
まをまをまをまをまを
源氏のまをまをまをまを
まをまをまをまをまを
り

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

まをまをまをまをまを

人志^シ也

をりもわたり 此の言

をり又言もあつた也

みかともと 周^{音昏}智^{音智}

善加及元利

うもむもいそて

とて海も神也俗り

うもむるぬかといふ也

これとひそて上の

これに録のうらなを也

上の録也 行^イサ^シ馬^シ蹄^イ

生^ナ易^シ蹶^ツ用^キ稀^シ印^シ鎖^シ

浩^シ難^シ用^キ 白氏文集

ふそと名のあつたも

毛^イ約^イ曰^イ三^イ月^イ不^イ見^イ况^イ於^イ三^イ

年^イ或^イ曰^イ自^イ阪^イ磨^イ蹄^イ洛^イ

四年^イ也

源氏^イと年^イ亦^イ一^イ方^イ也^イ我^イ身^イ

所^イか^イら^イの^イよ^イう^イと^イ由^イ也^イ

よと也^イ亦^イ年^イの^イあ^イつ^イり

成るるにいと歡は
尤こそとせし用とて
久事とらつて或る宮
かゝつて此の事
りたり
かゝるの事にて
かゝるの事にて
そとの事にて
そとの事にて
執りて

春生一友葉一
かゝるの事にて
かゝるの事にて
かゝるの事にて
かゝるの事にて
かゝるの事にて
かゝるの事にて
かゝるの事にて
あはれ
欠伸

どおさま

吼鼻 院文

かこやれ

おそれ 満

なれ

おのゝとていふ

おのゝとていふ

あつたのちとていふ

縁のちのり

院のちのり

にほひのちのり

おのゝとていふ

おのゝとていふ

とていふ

その母のちのり

院のちのり

おのゝとていふ

おのゝとていふ

おのゝとていふ

おのゝとていふ

おのゝとていふ

おのゝとていふ

院の宮女の御列女が

さかきおしりあはれ

とらちあしはらけり

あまのこもれく零落

一はなま

入方の宮女の御列女

さかきおしりあはれ

とらちあしはらけり

あまのこもれく零落

一はなま

さかきおしりあはれ

とらちあしはらけり

あまのこもれく零落

一はなま

あまのこもれく零落

とらちあしはらけり

あまのこもれく零落

一はなま

さかきおしりあはれ

とらちあしはらけり

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

よき事をいふはよし

一也也 亦いふに 亦いふに
志んば 亦いふに 亦いふに
侍のいふに 亦いふに 亦いふに
志んば 亦いふに 亦いふに
亦いふに 亦いふに 亦いふに
亦いふに 亦いふに 亦いふに
亦いふに 亦いふに 亦いふに
亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに
亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに
亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに 亦いふに 亦いふに

亦いふに

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the left page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text on the left page, second line.

Handwritten text on the left page, third line.

Handwritten text on the left page, fourth line.

Handwritten text on the left page, fifth line.

Handwritten text on the left page, sixth line.

Handwritten text on the left page, seventh line.

Handwritten text on the left page, eighth line.

Handwritten text on the left page, ninth line.

Handwritten text on the left page, tenth line.

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text on the right page, second line.

Handwritten text on the right page, third line.

Handwritten text on the right page, fourth line.

Handwritten text on the right page, fifth line.

Handwritten text on the right page, sixth line.

Handwritten text on the right page, seventh line.

Handwritten text on the right page, eighth line.

Handwritten text on the right page, ninth line.

Handwritten text on the right page, tenth line.

室の御 女御
まゝに権をたもたひ
申也

とあつての世の人

毒にまゝにまゝに

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

毎流まゝに神をたもたひ
とあつての世の人
とあつての世の人
とあつての世の人
とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

とあつての世の人

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

お名へんてか

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

香取の月とみくらん家陸
け一照西白評判也

とて海しんふあしよ

清が納るう枕奴より

とてこの月よ女のまゝし

あやも也但高時流布の

卒子の洞列しん

望日紀よとてとがら月の

此月よとあもよ也終一

空のひんてあふしん

三

志取の月よとあはれ

とてあはれ

とてあはれとあはれ

とてあはれとあはれ

とてあはれとあはれ

送愛寺鐘款枕能

香煙常言撥簾者系天

香煙常言系天

應和三年閏十二月廿日

今康同志飛鳥郡常則

推雪作蓬萊山松女房
小庭今日功賜帶則
及畫所雜色役若三
祿有差

お月あつ子 帯のあはれ
わらわとくしつあはれ
ふみ汗飲とくもあはれ
汗飲と累しつあはれ
おしとくしつあはれ 帯の袴
の腰あはれ

わらわとくしつあはれ
興しつあはれ

あはれがも 女房も
あはれと用もあはれ
あはれとくしつあはれ

あはれとくしつあはれ 貪
あはれとくしつあはれ
あはれとくしつあはれ

あはれとくしつあはれ
あはれとくしつあはれ
あはれとくしつあはれ

ついでに... 寛和元年五月十日... 松平子... の後... 延忠院... 以後...

多岐志... 中宮... 弘徽殿... 長徳二年...

はむ語實証のまをた一
とせといふ事また又ちよ
よに翁人所毛當証をきて
山といはく幸所のちびま

しんせいふんせ

新 永仁の北伏見 丁三にはま

あふ〜とふ〜しん

あふ〜とふ〜しん 蘭語

〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

語女〜しん〜しん〜しん
あふ〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

〜とふ〜しん

君〜と 業上〜と とも 証文

〜とふ〜しん

とくくくくくくくくくく
かろくくくくくくくくくく
— We shall see —

秋もついでにふたがへに
くくくくくくくくくく

秋もついでにふたがへに
くくくくくくくくくく

ゆたのくくくくくく 勝月
のくくくくくく 勝月

のくくくくくく 勝月

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

あははははははははは

他人の事には遠慮の心も我に
てはなほ思へばなほ梅
あるは一人の心も
山田人としての心も
力程の心も
受領の心もたその心も
恰好の心も
人々の心も、受領の
心も
心も

他人の事には遠慮の心も我に
てはなほ思へばなほ梅
あるは一人の心も
山田人としての心も
力程の心も
受領の心もたその心も
恰好の心も
人々の心も、受領の
心も
心も

髪のくし西の巻

くしつちの巻

権宮のくしつちの巻

くしつちの巻

かきつちの巻

くしつちの巻

おとしの巻

よる巻一説おとし

おとしの巻

のくしつちの巻

紫とあまの巻

宮のあまの巻

あまの巻

あまの巻

女君のあまの巻

あまの巻

くしつちの巻

後のあまの巻

くしつちの巻

あまの巻

1871 (1872) 10

水の池に三連の石を置く

の池に石を置く

生かすに始まる

の池に石を置く

の池に石を置く

の池に石を置く

の池に石を置く

